

看護学科学生の大学生活における 満足度に影響する要因の検討

— 学生生活調査の結果から —

人間健康学部

金城やす子 鈴木啓子 徳田菊恵

要旨

看護学科学生が入学後にどのような生活状況にあるのか、学習面や生活上の問題を含め、大学生活に関する実態を把握するために調査を行った。平成19年度入学生91名を対象に調査を行い、84名から回答を得た。

学生生活の満足度について、満足およびほぼ満足と回答したものは31名(36.9%)、不満・や不満は15名(17.9%)であった。学生生活の満足度に影響する要因としては学習満足度が相関係数0.524でもっとも高かった。そのため、学習満足度に影響する要因を検討するために因子分析を行い、10個の因子が抽出された。第1因子から第6因子はキャリアデベロップメントに関する支援や教育内容の充実であった。学科棟の未整備に不満が多いのではないかと懸念したが、教育内容や教職員による支援体制の充実がハード面の不十分さをカバーしていた。

A Study of Factors Influencing Nursing Student Satisfaction with University Life

— A Survey on Students' University Life —

Faculty of Human Health Sciences

Yasuko Kinjo, Keiko Suzuki, Kikue Tokuda

ABSTRACT

A survey was conducted to understand how nursing students are leading their university lives, including the aspects of study and the problems of daily life. The survey targeted 91 freshmen in 2007 and received responses from 84 students (92.3%), concerning satisfaction with university life, 31(36.9%), answered "satisfied enough" or "somewhat satisfied", and 15(17.9%), answered "dissatisfied" or "some what dissatisfied". Among the factors influencing these responses, satisfaction with study was the highest, with a 0.524 correlation coefficient.

In order to examine academic satisfaction, a factor analysis was conducted and ten factors were extracted. Factors 1 through 6 showed satisfaction with career development support and the academic content provided by Meio University. Despite the authors' concerns about dissatisfaction with imperfect facilities, the results imply that educational content and teacher support are compensating for the imperfection of facilities and equipment.

I はじめに

大学全入時代を迎え、入学してくる学生の学習、生活面での問題が多く大学の教育上の問題として認識されるようになった。看護学科は平成19年に1年次生を受け入れているが、看護学科会議などで学習面での指導や生活支援を要する学生が問題とされた。学習面での支援については、初年次教育のあり方（小原，2006；学習技術研究会，2006）や学士教育に関する文部科学省の指針（文科省，2008）、FDの取り組み（大学コンソーシアム京都，2007）などの文献や報告は多いが、学生生活の実態についての報告は少なく十分に把握されていない。ベネッセが刊行している『Between』（ベネッセ，2008）に、大学教育改善を学生の満足度調査から指摘している記事の特集が組まれている。学習面の満足度を中心に検討されているが学生生活全般に関する検討はされていない。

当看護学科では、奨学金の貸与率の高さやアルバイト時間の多さなど、経済的な問題を抱える学生への支援の重要さがいわれていた。生活上の問題、特に経済的な問題が学習面に大きく影響してくることが考えられた。そのため、学生の生活状況調査を実施することとした。学生生活調査は生活面に関する支援や履修面での支援を検討する基礎的な資料とすること、さらに、学生が在籍する沖縄県、名護市という地域特性を考慮し、学生の生活支援について検討することを目的に実施した。

II 研究目的

名桜大学看護学科学生の学習・生活状況に関する実態を明らかにする。特に学生生活における満足度に焦点をあて、学生生活満足度に影響する要因を明らかにし、学生生活への支援のあり方を検討する。

III 研究方法

1. 研究方法

留置法による質問紙調査とした。

1年次のすべての講義が終了した時点で、全学生に調査の概要と倫理的配慮について説明し、調査への協力を依頼した。質問紙は約1週間の留置きの後、回収した。

2. 研究対象

平成19年度入学の看護学科学生で平成20年1月に在籍している学生91名のうち、研究に関する説明に対して同意が得られた学生とした。

3. 研究期間

平成19年1月～平成20年12月

4. 倫理的配慮

本研究は質問紙調査であることから、調査用紙配布時に無記名調査であり、匿名性、任意性、守秘性に配慮する旨説明した。また、調査は成績とは一切関係なく、調査に協力することによる不利益を蒙ることがないこと、調査の途中で辞退の受け入れも可能であることを説明した。結果を公表することについても説明し、了承を得た。

5. 調査内容

調査内容は、他大学の調査や自己点検・自己報告書に報告されている設問を参考に、研究者間で検討し、構成した。調査項目や内容については看護学科会議に提示し、教員からの意見を参考に修正した。

具体的な項目は242項目で構成され、性別や居住地等の属性、奨学金貸与の有無、アルバイトの有無、仕送り等の生活費の実態、食事や睡眠などの日常生活リズム、学習時間や講義への出席等に関する内容、大学への要望、学生生活満足度などとした。学習に関する質問項目では、教育や学習支援体制、生活支援体制、進路、教職員による相談体制など44項目で構成した。

6. 用語の説明

「学生生活満足度」とは、現在の大学生としての生活を総合してどの程度満足しているのかをあらわしている。設問では“満足”から“不満”5件法での回答を求めた。

「学習満足度」とは、自己学習も含めた学習時間や学習環境における満足度をあらわしている。設問では、“十分に満足している”から“全く不満である”の4件法での回答を求めた。

本論文における「学生」は、平成19年度入学生であり、看護学科第1期入学生を意味する。

IV 結果

調査は全242項目から構成された質問紙を使用した。本研究では学生生活満足度に関する項目と関連要因、教育・学習支援体制の計54項目を使用して分析した。結果の分析はSPSS (Ver.13) を使用し、単純集計、クロス集計、因子分析(主因子法)、カテゴリカル回帰分析を用いた。

回答は84名(92.3%)であり、男性16名(19.0%)、女性68名(81%)、出身地は名護市内8名(9.5%)、本部町・今帰仁村・東村・大宜味村・国頭村9名(10.7%)、読谷村・嘉手納町・北谷町・うるま市・沖縄市・北中城村27名(32.1%)、中城村・宜野湾市・浦添市・西原町・那覇市・与那原町・南風原町・南城市・豊見城市・糸満市・八重瀬町32名(38.1%)、他離島5名(6.0%)、県外1名(1.2%)、居住地は名護市内が66名(78.6%)であった。

経済的な問題について、“全く余裕がない”と回答した学生は17名(20.2%)であり、“あまり余裕がない”23名(27.4%)を加えると約半数の学生が“余裕がない”と回答していた。両親や家族から仕送りを受けている学生は37名(42.5%)であり、そのうち仕送り額が5万円以下の学生は31名(83.8%)、6万円以上は6名であった。また、アルバイトをしている学生は40名(47.6%)であり、アルバイト収入も1万円から15万円の差がみられていた。奨学金の受給者は54名(62.1%)であり、貸与額は月額3万円から20万円と差がみられた。

学生は学生生活にどの程度満足しているのかを調査した。“満足・ほぼ満足”と回答した学生は31名(36.9%)であり、15名(17.9%)は“不満・やや不満”と回答していた。学生の満足度に影響する要因として“アルバイト”“経済状況”“悩み事を相談する友人の有無”“学習満足度”“入学動機”“居住地”との関連についてカテゴリカル回帰分析を行った(図1参照)。カテゴリカル回帰分析では、学生生活満足度(“満足”から“不満”までの5件法での回答)を従属変数としてそれぞれの独立変数との相関係数を算出した。分析ではF値が2.304、有意確立0.011(<0.05)であった。

相関係数が有意に高いものはみられなかったが“学習満足度”は0.524とやや高い傾向にあった。“経済状況”0.262、“居住地”0.256、“入学動機”0.226、“悩み事の相談できる友人の有無”0.112、“アルバイトの有無”は0.091であった。

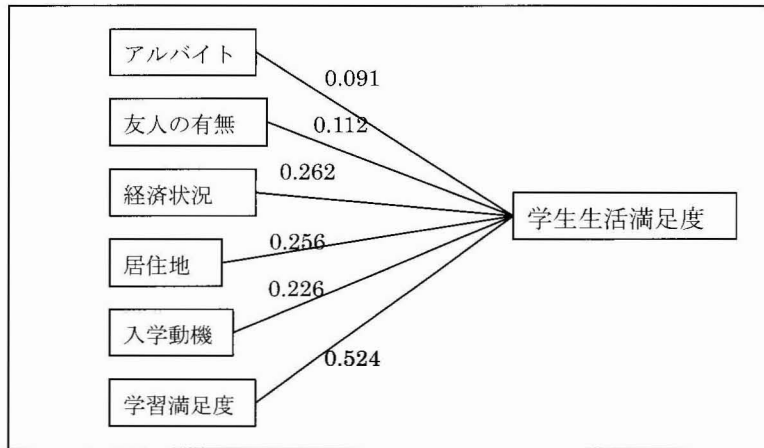


図1 学生生活満足度に関連する要因

N=84

最も相関係数の高かった“学習満足度”について、学生が学習をすすめるうえで満足する要因にはどのようなことが関与しているのか、関連する項目の因子分析を行い、表1に示した。

教育や学習支援体制、生活支援体制、進路、教職員による相談体制など全44項目について主因子法バリマックス回転を行い、10個の因子を抽出した。因子寄与率は66.3%、KMO標本妥当性0.73であった。なお、因子間のクロンバッハの α 係数は第1因子が0.918であり、第8因子の0.653がもっとも低値であることから内的整合性は確認された。本文中において、抽出された因子の表記は『かぎカッコ』を使用し、変数を表記する場合には「カッコ」を用いた。

第1因子は「就職のための資料や情報が豊富である」「就職・進学に関するガイダンスが充実している」「大学院進学・留学のための資料や情報が豊富である」「教職員は親身に就職・進学指導をしている」「インターンシップ等の職場体験の機会がある」「就職・進学の相談窓口などのサポート体制が充実している」「国家試験対策が充実している」から、『キャリアデベロップメントに関する支援』とした。第2因子は「専門科目が充実している」「専門基礎科目が充実している」「教養演習科目が充実している」「情報科目が充実している」「フレッシュマンセミナー、ふれあい看護実習が充実している」「シラバスが充実している」「教養科目が充実している」「教育方法(授業の進め方)には満足している」から『教育内容の充実』とした。第3因

表1 学習満足度に関連する因子

因子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
就職のための資料や情報が豊富である	0.834	0.054	0.283	0.011	0.114	0.055	0.030	0.117	-0.030	-0.116
就職・進学に関するガイダンスが充実している	0.791	0.020	0.134	0.070	-0.046	0.168	0.219	0.165	-0.019	0.072
大学院進学・留学のための資料や情報が豊富である	0.775	0.045	0.286	0.172	-0.094	0.158	0.112	0.200	0.000	0.042
教職員は親身に就職・進学指導をしている	0.742	-0.040	0.133	0.044	0.375	-0.134	0.043	-0.163	0.105	-0.104
インターンシップ等の職場体験の機会がある	0.661	0.214	0.154	0.039	-0.014	0.163	0.255	0.151	-0.037	0.276
就職・進学の相談窓口などのサポート体制が充実している	0.657	0.048	0.364	0.190	0.126	0.233	0.135	0.062	0.130	-0.019
国家試験対策が充実している	0.651	0.049	0.138	0.160	0.139	0.175	0.152	0.036	0.204	0.150
「専門科目」が充実している	-0.057	0.912	0.069	0.179	0.020	0.073	0.154	0.067	0.048	0.032
「専門基礎科目」が充実している	-0.025	0.909	0.013	0.101	0.076	0.103	0.068	-0.049	0.088	0.130
「教養演習科目」が充実している	0.089	0.879	0.115	-0.039	0.125	0.072	0.036	0.041	0.025	0.089
「情報科目」が充実している	0.150	0.755	0.217	0.125	0.060	0.021	0.102	0.385	0.021	-0.064
「フレッシュマンセミナー、ふれあい看護実習」が充実している	0.210	0.721	0.110	0.118	0.086	0.089	-0.107	-0.068	0.154	-0.056
シラバスが充実している	-0.028	0.660	0.189	0.287	0.285	-0.041	0.109	0.243	-0.064	0.080
「教養科目」が充実している	0.112	0.647	0.035	0.263	0.036	-0.029	-0.098	0.488	-0.159	-0.144
教育方法(授業の進め方)には満足している	0.029	0.408	-0.094	0.502	0.205	-0.044	0.125	-0.089	0.133	-0.195
アパートや下宿などの居住に関する情報の提供が充実している	0.319	0.138	0.763	0.005	0.008	0.067	0.105	0.059	0.073	0.145
地域の暮らしに関する情報の提供が充実している	0.234	0.235	0.698	0.055	0.022	-0.041	0.059	0.151	0.129	0.103
奨学金・授業料免除等の支援体制が充実している	0.261	0.108	0.686	0.276	0.048	0.059	-0.024	0.056	0.099	0.131
健康管理・カウンセリング等の体制が整えられている	0.215	0.050	0.667	-0.010	0.213	0.373	0.029	0.037	0.097	-0.149
休学・退学・転学部・学科等の相談・支援体制が整っている	0.241	0.103	0.596	0.224	0.246	0.316	-0.038	0.152	0.078	-0.175
アルバイト情報の提供が充実している	0.212	0.102	0.429	0.284	0.002	0.060	0.014	0.365	0.023	0.365
授業時間割が適切である	0.059	0.216	0.025	0.675	0.126	0.113	0.042	0.049	-0.078	0.133
パソコンなどのインターネット環境が充実している	0.041	-0.074	0.138	0.655	0.075	0.047	0.059	0.060	0.380	-0.018
教育・研究・演習に必要な設備・備品が充実している	0.106	0.200	-0.024	0.621	0.194	0.035	0.061	0.249	0.215	0.054
講義室・演習室が整備されている	0.079	0.159	0.102	0.579	-0.012	0.010	-0.014	0.079	0.486	0.093
学生に対する学内情報が十分に伝わっている	0.109	0.103	0.218	0.456	0.130	0.423	0.013	0.167	-0.059	-0.061
授業・講義以外で教員とのコミュニケーションが十分とれている	0.175	0.118	-0.046	0.130	0.638	0.100	-0.054	0.061	0.040	0.201
教員や相談員に相談しやすい	0.034	0.161	0.176	0.210	0.639	-0.019	0.369	-0.055	-0.017	-0.153
魅力のある・進んで受けたいと思う授業が多い	0.082	0.432	0.184	0.016	0.614	0.154	0.001	0.045	0.298	-0.054
成績評価は適切である	-0.093	0.358	0.231	0.407	0.416	-0.062	0.288	0.011	-0.050	0.183
企業や社会など、学外に向けた大学のPRがなされている	0.448	0.238	0.115	0.177	0.075	0.637	0.220	0.119	0.050	0.003
学生意見箱は改善に結びついている	0.541	0.149	0.197	-0.028	0.132	0.590	0.136	0.068	0.030	0.204
防犯設備およびその管理は充実している	0.458	0.012	0.257	0.103	0.023	0.543	0.302	0.133	0.109	-0.039
外国人留学生との交流、国際交流の機会に恵まれている	0.255	0.039	0.336	0.134	0.061	0.430	0.102	0.493	0.193	0.194
大学構内の環境整備(清掃、緑の管理など)が適切に行われている	0.256	0.049	0.005	0.093	0.036	-0.043	0.726	-0.002	0.107	-0.158
大学が地域に開かれている	0.187	0.062	0.114	0.048	0.112	0.188	0.672	0.151	-0.009	0.056
体育館・運動施設が充実している	0.162	0.284	0.184	0.077	-0.078	0.186	0.132	0.553	0.172	0.039
自習スペースが確保されている	0.073	0.126	0.234	0.242	0.101	0.078	0.082	0.101	0.715	0.032
図書館が充実している	0.107	0.034	0.139	0.371	0.090	0.022	-0.071	0.103	0.108	0.504
施設のバリアフリー化が進んでいる	0.271	0.103	0.137	0.153	0.135	-0.006	0.109	0.342	0.323	0.256
食堂・売店(施設・メニュー・品揃えなど)が充実している	0.259	0.157	0.319	0.636	-0.075	0.048	0.062	-0.049	-0.039	0.195
事務職員の窓口対応が適切に行われている	0.284	0.089	0.275	0.294	0.392	0.182	0.316	0.086	-0.016	-0.076
オフィサー制度が充実している	0.215	0.118	0.116	0.086	0.256	0.196	0.321	0.375	0.034	0.121
公共の場での禁煙、分煙が明確になっている	0.285	0.047	-0.137	-0.037	0.004	0.188	0.369	0.015	0.021	0.143
寄与率(%)	30.2	10.7	5.7	4.5	3.8	3.0	2.4	2.3	2.1	1.7
累積寄与率(%)	30.2	40.9	46.6	51.1	54.9	57.9	60.2	62.5	64.6	66.3

(* 固有値0.4以上に網掛け表示している)

子は、「アパートや下宿などの居住に関する情報の提供が充実している」「地域の暮らしに関する情報の提供が充実している」「奨学金・授業料免除等の支援体制が充実している」「健康管理・カウンセリング等の体制が整えられている」「休学、退学、転学部・学科等の相談・支援体制が整っている」「アルバイト情報の提供が充実している」から『生活支援体制の充実』、第4因子は、「授業時間割が適切である」「パソコンなどのインターネット環境が充実している」「教育・研究・演習に必要な設備・備品が充実している」「講義室・演習室が整備されている」「学生に対する学内情報が十分に伝わっている」から『学習環境の整備』、第5因子は、「授業・講義以外で教員とのコミュニケーションが十分とれている」「教員や相談員に相談しやすい」「魅力のある・進んで受けたいと思う授業が多い」「成績評価は適切である」から『教員による教育的な支援』、第6因子は「企業や社会など、学外に向けた大学のPRがなされている」「学生意見箱は改善に結びついている」「防犯設備およびその管理は充実している」「外国人留学生との交流、国際交流の機会に恵まれている」から『大学としての組織的な支援体制』、第7因子は「大学構内の環境整備(清掃、緑の管理など)が適切に行われている」「大学が地域に開かれている」から『大学の設置環境の充実』、第8因子は「体育館・運動施設が充実している」「外国人留学生との交流、国際交流の機会に恵まれている」「教養科目が充実している」から『施設・設備面の充実』、第9因子は「自習スペースが確保されている」「講義室・演習室が整備されている」から『学習スペースの確保』、第10因子は「図書館が充実している」から『図書館の整備・充実』とした。因子分析ではおおむね固有地1.0以上を有効な因子として特定するが、第10因子は因子数が1と少なく、固有値は1.08、寄与率1.108であった。

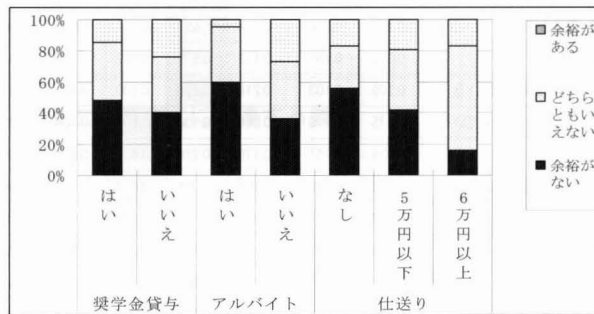


図2 経済的余裕の有無

学生生活満足度に影響する要因である経済状況について、経済的な余裕の有無と奨学金の貸与、アルバイト、仕送りとの関連を図2に示した。

アルバイトの有無に有意差が見られ($\chi^2=8.71(2)p<0.05$)、アルバイトをしない学生は、アルバイトをしている学生に比べると“余裕がある”と回答するものが多かった。

“居住地”について、名護市内と市外を5区域に分けて検討した。住居地の学生生活への影響について、各カテゴリーの数量化(各カテゴリーが従属変数に与える影響の大きさであり、平均0、分散1として係数により決められる)を求めて検討した。名護市居住者の数量化は、-0.406であり、那覇以南の地域(中城村・宜野湾市・浦添市・西原町・那覇市・与那原町・南風原町・南城市・豊見城市・糸満市・八重瀬町)に在住している学生の7.065と比べて有意に

低かった。数量化が高くなることで、生活満足度のマイナス要因となることを考えると、遠距離通学の学生の満足度が低いことになる。

次に、入学動機について、数量化では“希望通り”が -0.763 、“ほぼ希望通り” -0.074 、“やや不本意” 0.235 、“かなり不本意” 4.564 であった。入学が本人の意志と反している場合には、その後の学生生活にも大きく影響していた。学生がどのような動機を持って入学しているのかを図3に示した。

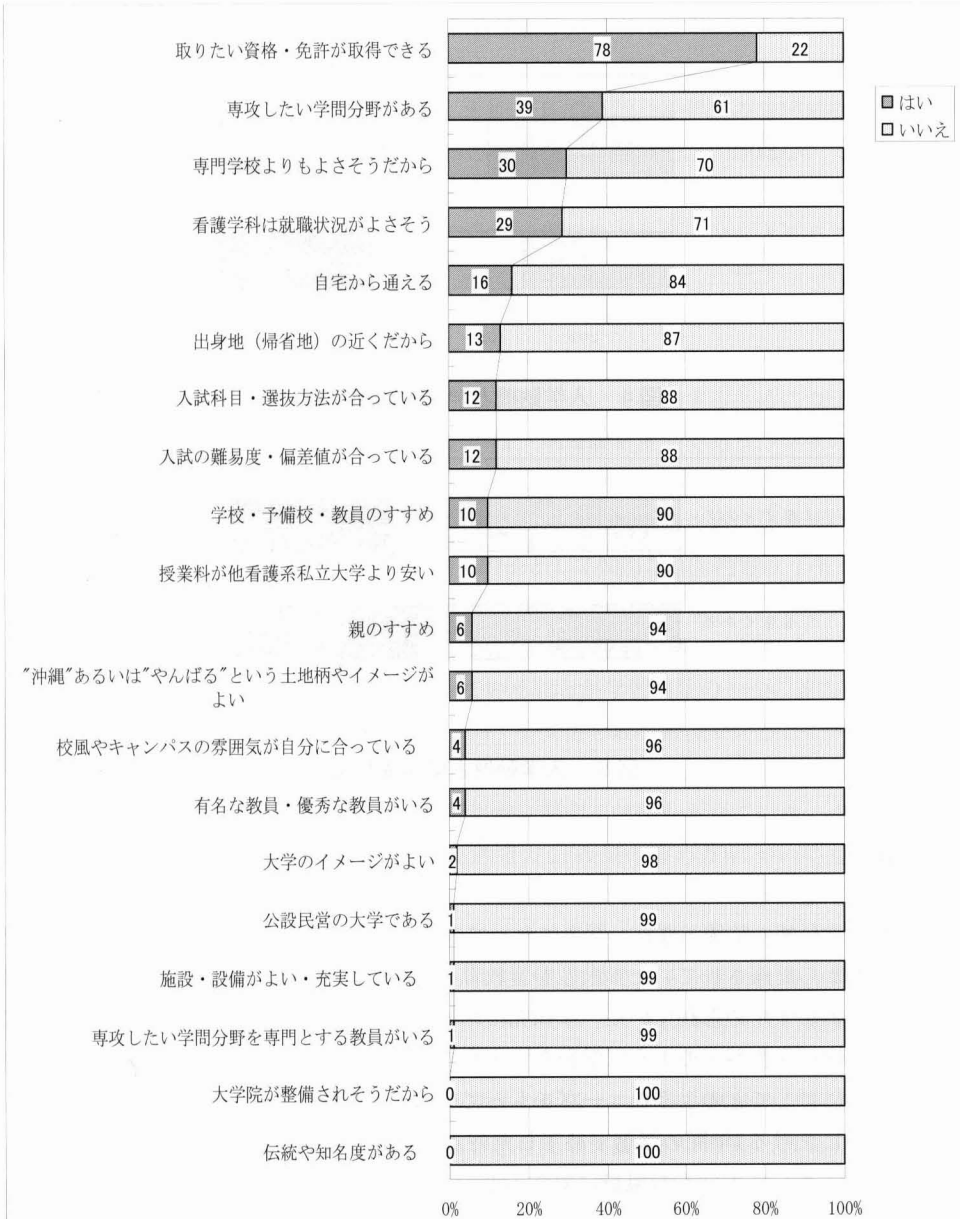


図3 入学動機

N=84

「親のすすめ」は比較的少なく、「免許・資格取得」が大きな動機であった。「公設民営の大学である」「施設・設備がよい・充実している」「専攻したい学問分野を専門とする教員がいる」は回答率1.2%、「大学院が整備されそうだから」「伝統や知名度がある」は回答者0であった。入学動機と学生生活満足度、学習満足度との関連について図4、図5に示した。“不本意である”とする入学動機を持つ学生は、学生生活に“不満である”とするものが33.3%であり、学習満足度では41.7%が“不満である”と回答していた。

入学動機と学生生活満足度、学習満足度との関連では、入学動機と学生生活満足度において有意差がみられた($\chi^2 = 6.02(2)p < 0.05$) が、学習満足度には有意な差はみられなかった。

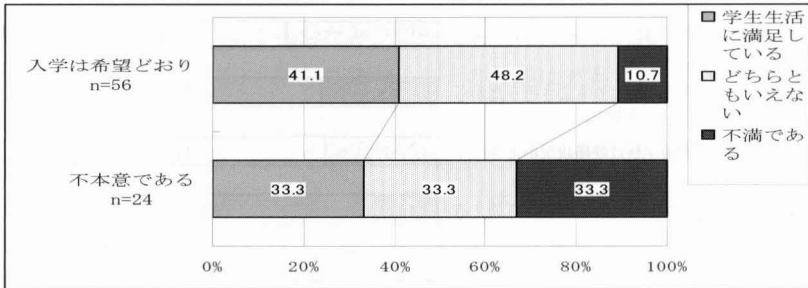


図4 入学動機と学生生活満足度

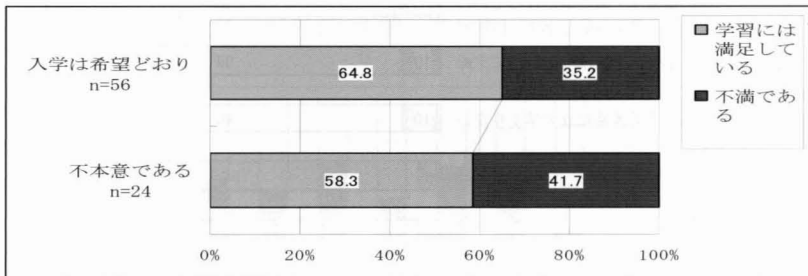


図5 入学動機と学習満足度

V 考察

看護学科は学科棟の整備が遅れ、学生にとっての教育環境は十分とはいえない状況にあった。しかし、当初から計画されていた参画型看護教育を積極的に展開し、学生の主体性を育てる教育カリキュラムがすすめられていた。本研究において学生生活に対する満足度を分析することにより、初年次の学生がどのように学習をすすめているのか、学習上の問題や課題は何か、また学生が大学に対してどのようなニーズをもっているのかを明らかにすることができた。調査は、看護学科における1年間の学習が終了した時点で実施しているため、教育内容や大学生活における問題、さらに大学や教職員に対する要求・評価など、学生による十分な評価が得られたと考える。

1. 学生の経済状況

学生は1名を除くすべての者が県内出身であったが、中・南部の学生が多く、名護市内のアルバイトに在住して通学していた。ゼミワークやクラスワークを担当する教員の不安を裏付けるように、約半数の学生は入学当初よりアルバイトに時間をとられていた。家族からの仕送りが全くなく、奨学金とアルバイト収入だけで大学生活を維持する学生が多く、経済的な問題が学習面に少なからず影響を及ぼしていることが明らかになった。奨学金貸与や仕送りがあることは、学生の生活にとって重要な支援といえる。アルバイトをしている学生に比べてアルバイトをしていない学生は、経済的な面で余裕があると感じ、アルバイトが学生生活の満足度を下げの一要因となっていた。学生は経済的な困難さをどの程度感じているのかを調査した結果、40名(47.6%)は“経済的にかなり困難である”と回答していた。4年間の看護基礎教育を継続していくためには、アルバイトに頼る生活には限界があり、経済的な問題について学生個人の努力だけでは難しい状況にある。教育を継続していくためには経済的な支援は重要であり、学習継続の意思がありながら入学後に進路変更や休学、退学などを余儀なくされることがないように学生への対応が求められる。

2. 学生生活満足度と学習満足度

学生生活満足度を調査し、満足度に影響する要因について検討するためにカテゴリカル回帰分析を行った。相関係数が比較的高かったものは“学習満足度”であり、学生の生活を満足させるためには十分な学習時間が確保されることや学習環境が整っていることが重要であることが示唆された。そこで、学習の満足度を保障する要因を検討するために、学生に対する支援内容に関する因子分析を行った。その結果、第1因子として抽出された内容は『キャリアデベロップメントに関する支援』であり、卒業後の進路に関する支援体制として、教職員による指導や情報提供が充実していることがあげられていた。看護学科の特徴の一つである看護師・保健師国家試験の受験について、準備教育が充実していることが学習満足度の一つの要因となっていた。このことから、学生は卒業後の資格や就職に関する支援を最も望んでいることが明らかになった。第2因子の『教育内容の充実』は、提供する科目が充実していることであり、看護学科独自のフレッシュマンセミナーやふれあい看護実習に関する評価もされていた。さらに、看護学科の教育形態である小人数教育を中心とする教育方法(授業の進め方)についても満足していると評価されていた。“大学で何を学ぶのか”“どのように学ぶのか”など、初年次教育として積極的に取り組んでいる教育内容が、1年次終了時の学生に評価されていた。このことは、看護学科の教育方法が学生に十分に受け入れられている結果であると思われる。第3因子は『生活支援体制の充実』であり、1人暮らしの学生への生活上の支援体制、また健康管理や相談体制が整っていることが満足度につながる要因としてあげられていた。学生相談室や健康管理を行う医務室の存在、ゼミ担当教員の関わりが学生の生活上の不安や精神的な不安をサポートしていた。このことは、第5因子の『教員による教育的な支援』の、学生と教員のコミュニケーションや相談体制の充実が学生生活にとって重要な支援であることにつながっている。第4因子の『学習環境の整備』は、講義室の整備だけではなく、演習時に使用する教員の研究室が学生の満足度に貢献していた。設備・備品の整備が十分ではない状況であるが、パソコンルームの整備や学習支援室が自由に使用できることなど、仲間作りができており情報の共有ができる

学習環境は学生の満足度につながっていた。第6因子の『大学としての組織的な支援体制』では、学生は教員からの支援だけではなく、大学全体の組織としての支援体制を認識していた。教員による知識・技術の教授を支える大学職員の存在は、学生生活支援に欠かせない重要な側面を担っていた。

第6因子までは教育内容や教職員による支援など、教育に関するソフト面での支援の充実であった。それに対し、第7因子以降は大学の環境としてハード面の整備があげられていた。設備・備品の整備は学生の学習満足度を左右する因子ではあるが、それ以上に教職員による支援の充実が学生生活を満足させる要因であることが示唆された。

学生生活の満足度に影響する要因として、入学時の動機が多少影響するという結果が得られたため、入学動機と学生生活満足度との関連について検討した。入学が希望通りであった学生41.1%は“生活に満足している”と回答し、不本意な入学動機であった学生は33.3%が“不満”を感じていた。両者に有意差がみられたことから、入学動機は1年間の教育を経過した後にも解決できない要因としてとらえられていた。学習に関する満足度において、“希望どおり”と回答した学生の35.2%が学習に不満をいただき、不本意な入学動機であると回答した学生は41.7%が不満であると回答した。学習満足度においても不本意な入学をした学生は学習上の不満を感じる率が高く、入学時の動機が入学後の学生生活や学習にかなり長期にわたって影響することが明らかになった。そのことから、教員は学生支援において個々の学生の生活状況や学習状況を十分に把握し、適切な指導を進めることが重要であることが示唆された。

入学動機については、資格が取得できることを最大の動機ととらえる学生が多く、看護学科が開設時に強調した公設民営であることや施設・設備面、地域性などはほとんど学生の入学動機にはなりえていないことがわかった。また、将来の人生設計に対しては、自分自身がどのように選択・決定するのが問われるが、“親のすすめ”によって大学を選択したという学生が6%あった。看護の基礎教育過程において“親のすすめ”による入学が、その後の学習にマイナスの影響を及ぼさないためには、日々の学習において常に目標設定をし、主体的に学べる教育内容や興味を引き出す学習の工夫が必要である。さらに、満足感の得られる学生生活が送れるような支援体制が求められる。

入学動機の内容や学生生活のニーズの把握は、入学後の学生生活支援に活用する重要な情報となった。さらに、本調査の結果は、今後入学を希望する学生に対する情報提供のあり方や看護学科の教育方針や内容を説明する参考資料としても多に活用できるのではないかと考える。そのうえ、今後の学生募集活動に活用したり、入学後の学生生活支援を充実させることが、看護学科の教育を発展させていくものと思う。

VI おわりに

学生生活調査は、学生の生活状況の実態を把握し、学生の生活支援、学習支援に活用したいとの目的から調査を実施した。本研究では学生の生活満足度に視点をあててまとめなおし、学生がどのような教育的支援を必要とし、評価しているかを確認することができた。教員として学生の生活を支援し、学習を達成することができるように学生とどのように関わることが重要である。今後、経年的な調査を行い、学生の生活状況、学習状況の把握とともに、大学や学科

へのニーズの明確化を図り、看護学科の教育課程や教授内容、教授方法を検討する資料とした。

参考文献

ベネッセ教育研究開発センター『学生満足度から大学教育改善のポイントを探る』、Between、秋号、2008年
学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版、2006年

文部科学省『学士課程教育のあり方』、文部科学省答申(案)、2008年

(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/gijiroku/001/08103112/004.pdf#search='学士課程教育の在り方')

小原芳明編著『大学生活ナビ』、玉川大学出版部、2006年

大学コンソーシアム京都『大学教育と社会－FD義務化を控えて－』、2007年